

### 1) 木造建築物におけるコストコントロール

本来は、木造建築物に限らず、工事項目別の予定予算を、設計前に建物仕様を考慮しつつ作成し、それに沿って設計段階で、見積りを取り詳細仕様を決定していく必要がある。これは多分に、経験による部分もあるが、住宅の設計においても日頃から設計内容とコストの関係を資料として残す工夫を行うべきであろう。一般に、設計者の悪い癖で、どうしてもオーバースペックな材料や加工手間が多く必要なディテール等にこだわることにより、最終段階のコスト調整が困難となっている状況がある。

その上で、木造建築物については、構造躯体と下地材、仕上材に分類し、おおよそどのぐらいの単価のものをどの程度使うかを決定する。次にその加工をどのように行うか、予想される加工者の実態に合わせて、予測する必要がある。すなわち、構造躯体は、杉の特一等程度の材の定尺物で構成し定尺を外れる材は1割程度にとどめるなどと決め、構造材は  $0.15\text{m}^3/\text{m}^2$ 、下地材は  $0.08\text{m}^3/\text{m}^2$ 、仕上材は板材を含め  $0.08\text{m}^3/\text{m}^2$ などと仮定する。次に、予想される入荷ルートに沿った単価を想定しておく、あるいは見積りを取る（現場搬入までの）。

これを行わずに、設計していると、材料の使いすぎなのか、単価の設定が適切でないのか、どこに問題があるか分からず、調整しようにも設計変更をかけるしかなく、設計そのものの問題となりかねない。